

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月6日
【四半期会計期間】	第53期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社オービック
【英訳名】	OBIC Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橘 昇一
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理本部長 井坂 眞持
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理本部長 井坂 眞持
【縦覧に供する場所】	株式会社オービック大阪本社 (大阪府大阪市中央区博労町三丁目5番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第2四半期 連結累計期間	第53期 第2四半期 連結累計期間	第52期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (百万円)	36,169	40,059	74,163
経常利益 (百万円)	20,636	23,779	41,927
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	15,751	19,147	32,223
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	17,187	19,800	32,201
純資産額 (百万円)	208,578	231,382	218,476
総資産額 (百万円)	232,226	256,240	244,909
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	177.08	215.26	362.26
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	89.8	90.3	89.2
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	12,363	13,526	29,843
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	4,711	5,627	8,209
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	6,004	6,894	11,119
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	111,105	120,976	119,972

回次	第52期 第2四半期 連結会計期間	第53期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	84.63	98.10

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、通商問題をめぐる緊張の増大が世界経済に与える影響に注意するとともに、中国経済の先行きや海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響など景気の先行き不透明な状況に留意が必要です。

当情報サービス業界においては、働き方改革への取り組みなどを背景に、企業の生産性向上や業務効率化を目的としたシステムの更新投資需要は引き続き高い状態にあるものの、先行き不透明な景況感の中で投資判断には慎重さが見られました。企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

当社は、このような状況の中、自社開発・直接販売にこだわり続け、顧客企業の経営効果を実現するため、製販一体体制のもと顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。当社の主力である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計を中心に統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に幅広く求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。業種・業務別のソリューションに関しても、金融業向け、サービス業向け、流通業向け、製造業向け等、業種を問わずシステム構築の引き合いが強まりました。システムの短期導入、早期稼働につながりやすく、グループ全体の最適化やビジネス環境の変化にもスピーディに対応できるとして年々引き合いが強まっているクラウドサービスのニーズにも、自社運営のクラウドセンターでアプリケーションからインフラまで一貫したサービスを提供し対応しております。また、クラウド関連施設の設備増強やセキュリティ・サービス強化、顧客向け研修施設の拡張など付加価値向上につながる先行投資も継続して進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高400億59百万円(前年同期比10.8%増)、営業利益216億56百万円(同16.4%増)、経常利益は237億79百万円(同15.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は191億47百万円(同21.6%増)となりました。

今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいり所存であります。

セグメントの業績は次の通りであります。

(A) システムインテグレーション事業

主力の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、202億99百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は107億43百万円(同9.7%増)となりました。

(B) システムサポート事業

主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」および「クラウドソリューション」が好調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、150億35百万円(前年同期比15.6%増)、営業利益は100億59百万円(同23.6%増)となりました。

(C) オフィスオートメーション事業

業務用パッケージソフトやオフィス家具の販売が好調に伸長したことに加え、印刷サプライやオフィス用品の販売も堅調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、47億23百万円(前年同期比15.2%増)、営業利益は8億53百万円(同26.5%増)となりました。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計残高については、前連結会計年度末比で113億31百万円増加し2,562億40百万円となりました。これは主に、建設仮勘定が78億12百万円増加したことなどによるものであります。

負債合計残高は、15億74百万円減少し248億57百万円となりました。これは主に、未払法人税等が3億51百万円減少したことなどによるものであります。

純資産合計残高は、129億6百万円増加し2,313億82百万円となりました。これは主に、利益剰余金が122億53百万円増加したことによるものであります。結果、自己資本比率は90.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は1,209億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ、10億4百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、135億26百万円(前年同期比9.4%増)であります。これは主に税金等調整前四半期純利益が257億4百万円計上されたほか、利息及び配当金の受取額が9億73百万円計上された一方で、持分法による投資利益が18億63百万円計上されたこと、償却債権取立益が24億98百万円計上されたこと及び法人税等の支払が68億23百万円発生したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、56億27百万円(前年同期は47億11百万円の減少)であります。これは主に有形固定資産の取得による支出が81億67百万円計上されたこと及び償却債権の回収による収入が24億98百万円計上されたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、68億94百万円(前年同期は60億4百万円の減少)であります。これは主に配当金の支払によるものであります。

なお、今後とも資金を企業の業績伸長のため有効に使用しつつ、「効率経営」に努めてまいり所存であります。

(4) 経営方針

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当社グループ(当社及び連結子会社)は、コンピュータシステムの先端技術分野で今後の事業の中心となる製品の研究開発を進めており、連結財務諸表を作成する当社のシステムインテグレーション事業においてのみ行なっております。

当社の研究開発活動は、システムインテグレーション事業の総合的な観点から、主力製品であり、様々な業界・業種に幅広く適用できる統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」の研究開発を中心に、ネットワーク技術や通信技術、ハードウェアの新製品に対する検証、あるいはソフトウェアやミドルウェアに対する検証等々の幅広い分野で研究開発活動を行ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は7億44百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	398,400,000
計	398,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	99,600,000	99,600,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	99,600,000	99,600,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	99,600,000	-	19,178	-	19,413

(5)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社ノダ・マネジメント	東京都中央区京橋2-4-15	16,909	19.00
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	8,959	10.07
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社	東京都港区浜松町2-11-3	6,524	7.33
ステートストリートバンクアンドト ラストカンパニー505223 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済 営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都港区港南2-15-1)	3,621	4.07
野田 順弘	東京都大田区	2,881	3.23
野田 みづき	東京都大田区	2,781	3.12
エスエスピーティーシークライアン トオムニバスアカウント (常任代理人 香港上海銀行東京支 店カスタディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3-11-1)	2,318	2.60
ジェーピーモルガンチェースバンク 385632 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2-15-1)	2,276	2.55
チエースノミニーズリジヤスデツク トリーテイークライアントアカウン トジエネラル (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行決 済事業部)	CHASESIDE, BOURNEMOUTH, DORSET, BH7 7DB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	1,787	2.00
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	1,347	1.51
計	-	49,406	55.54

(注) 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社および資産管理
サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち信託業務に係る株式数はそれぞれ8,959千株、6,524千株およ
び1,347千株であります。

2. 上記のほか、当社が所有している自己株式10,649千株があります。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,649,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 88,937,900	889,379	-
単元未満株式	普通株式 12,600	-	-
発行済株式総数	99,600,000	-	-
総株主の議決権	-	889,379	-

(注) 上記の「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が48株含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社オービック	東京都中央区 京橋2-4-15	10,649,500	-	10,649,500	10.69
計	-	10,649,500	-	10,649,500	10.69

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	119,972	120,976
受取手形及び売掛金	9,626	10,387
商品及び製品	142	128
仕掛品	210	205
原材料及び貯蔵品	40	5
その他	1,135	1,091
貸倒引当金	1	2
流動資産合計	131,125	132,792
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,012	3,056
土地	27,849	27,849
建設仮勘定	15,788	23,601
その他(純額)	1,097	1,133
有形固定資産合計	47,747	55,640
無形固定資産		
その他	106	111
無形固定資産合計	106	111
投資その他の資産		
投資有価証券	61,663	63,344
その他	4,270	4,357
貸倒引当金	4	6
投資その他の資産合計	65,929	67,695
固定資産合計	113,784	123,448
資産合計	244,909	256,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,029	3,772
未払法人税等	7,188	6,837
賞与引当金	2,372	2,372
その他	5,390	4,506
流動負債合計	18,981	17,488
固定負債		
退職給付に係る負債	6,290	6,212
資産除去債務	187	206
その他	974	949
固定負債合計	7,451	7,369
負債合計	26,432	24,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,178	19,178
資本剰余金	19,530	19,530
利益剰余金	196,183	208,437
自己株式	22,139	22,140
株主資本合計	212,752	225,005
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,553	8,144
土地再評価差額金	1,705	1,705
退職給付に係る調整累計額	124	62
その他の包括利益累計額合計	5,723	6,376
純資産合計	218,476	231,382
負債純資産合計	244,909	256,240

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	36,169	40,059
売上原価	11,087	11,997
売上総利益	25,082	28,061
販売費及び一般管理費	1 6,477	1 6,405
営業利益	18,604	21,656
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	278	284
持分法による投資利益	1,744	1,863
受取賃貸料	1	1
その他	70	38
営業外収益合計	2,095	2,190
営業外費用		
賃貸費用	62	66
その他	0	0
営業外費用合計	63	67
経常利益	20,636	23,779
特別利益		
償却債権取立益	960	2,498
その他	0	1
特別利益合計	960	2,499
特別損失		
償却債権取立費用	-	500
投資有価証券評価損	-	73
その他	0	0
特別損失合計	0	574
税金等調整前四半期純利益	21,596	25,704
法人税、住民税及び事業税	5,891	6,484
法人税等調整額	46	72
法人税等合計	5,844	6,557
四半期純利益	15,751	19,147
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,751	19,147

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	15,751	19,147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	696	97
退職給付に係る調整額	16	33
持分法適用会社に対する持分相当額	756	717
その他の包括利益合計	1,436	653
四半期包括利益	17,187	19,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,187	19,800
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	21,596	25,704
減価償却費	279	299
持分法による投資損益(は益)	1,744	1,863
投資有価証券評価損益(は益)	-	73
償却債権取立益	960	2,498
役員賞与引当金の増減額(は減少)	91	100
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	1
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	128	29
受取利息及び受取配当金	279	286
売上債権の増減額(は増加)	1,190	761
たな卸資産の増減額(は増加)	102	53
仕入債務の増減額(は減少)	504	257
その他	239	961
小計	17,099	19,375
利息及び配当金の受取額	823	973
法人税等の支払額	5,559	6,823
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,363	13,526
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,879	8,167
無形固定資産の取得による支出	19	20
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	-	200
償却債権の回収による収入	960	2,498
その他	229	135
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,711	5,627
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	6,004	6,893
その他	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,004	6,894
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,647	1,004
現金及び現金同等物の期首残高	109,458	119,972
現金及び現金同等物の四半期末残高	111,105	120,976

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料及び手当	2,362百万円	2,487百万円
賞与引当金繰入額	971	966
退職給付費用	84	111
賃借料	311	314
減価償却費	55	59
広告宣伝費	574	586

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	111,105百万円	120,976百万円
現金及び現金同等物	111,105	120,976

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	6,004	利益剰余金	67円50銭	2018年3月31日	2018年6月29日

(注) 上記1株当たり配当額には、創立50周年記念配当10円を含んでおります。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2018年10月29日 取締役会	普通株式	5,114	利益剰余金	57円50銭	2018年9月30日	2018年11月22日

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	6,893	利益剰余金	77円50銭	2019年3月31日	2019年6月28日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年10月28日 取締役会	普通株式	6,226	利益剰余金	70円00銭	2019年9月30日	2019年11月22日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	19,059	13,010	4,100	36,169	-	36,169
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	-	150	152	152	-
計	19,060	13,010	4,251	36,322	152	36,169
セグメント利益	9,794	8,135	674	18,604	-	18,604

(注)1. 「調整額」の 152百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	20,299	15,035	4,723	40,059	-	40,059
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	-	218	222	222	-
計	20,304	15,035	4,941	40,281	222	40,059
セグメント利益	10,743	10,059	853	21,656	-	21,656

(注)1. 「調整額」の 222百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	177円08銭	215円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	15,751	19,147
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	15,751	19,147
普通株式の期中平均株式数(株)	88,950,606	88,950,500

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(1) 2019年10月28日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

中間配当による配当金の総額・・・・・・・・6,226百万円

1株当たりの金額・・・・・・・・70円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・2019年11月22日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

(2) その他特記すべき事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月6日

株式会社オービック
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 中井清二印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 池田洋平印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オービックの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オービック及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- () 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。